

# 核兵器禁止条約を力に、核兵器のない平和で公平な世界の実現を

## 平診九条の会 かべしんぶん

2017年8月号  
(通算45号)  
発行  
平診9条の会



共謀罪は直ちに廃止を!  
7月19日のスタンディング行動より



原水禁世界大会の壮行会にて～掲げているのは看護師さんが作成した折り鶴アート

みんなの願いをもって長崎に行ってきます。

### 看護師 硯 美穂



今年、広島・長崎への原爆投下から72年に  
して、核兵器禁止条約が国連で採択され、原  
水爆禁止運動にとって、正念場になろうとし  
ています。あの惨劇を二度と繰り返してはい  
けないという被爆者の訴えが国際社会を動か  
し、条約という形で結実したと言えます。し  
かし、残念なことに核保有国に加えて、唯一  
の戦争被爆国である日本が加盟の意思を示し  
ていません。国連加盟国の3分の2近い122ヶ  
国の賛成で核兵器禁止条約は採択され、発  
行は確実であるにもかかわらず、核保有国  
が加わっていないため、条約の実効性が疑  
問視されています。世界の核兵器の9割が  
アメリカとロシアで保有し、日本は、アメ  
リカの「核の傘」に守られていて安全保障  
も重視した結果というのが政府の言い分で  
す。被爆国である日本が条約に背  
を向けることは被爆者はもちろん、  
その訴えに共感する世界の人達を  
裏切ることになり、日本は条約に

加盟し「核なき世界」を目指す意思を示すべきです。  
被爆国として条約に名を連ねてこそ、核保有国に核  
放棄を訴える力になると考えられています。今年の  
原水爆禁止世界大会では、活動計画の1番に、交渉  
会議に「ヒバクシャ国際署名」の大集結を掲げ、  
今年、核兵器禁止条約の採択という歴史的な一歩前  
進となりました。この署名活動は、日本で初めて被  
爆者の呼びかけで始まった署名活動で、平均年齢80  
歳を超えた広島長崎の被爆者の方たちが真夏の炎天  
下の中始めたそうです。広島長崎の経験は、世界に  
強い影響力を持っています。日本政府の立場ではな  
く唯一の被爆国国民として、世界に声を届けること  
が出来るこの日本の平和運動を積極的に支援してい  
きたいと思えました。時代の流れと共に体験を語れ  
る人が減ってきていき、今を生きる私たちが、その言葉  
をつないでいかなければいけません。明るく楽し  
い未来のために、核廃絶と戦争のない世界へ一歩で  
も近づけるように色々と体験し、そして、小さな一  
歩として、周りの人たちに伝えられるように長崎で  
たくさんの方の事を学んできたと思います。

7月24日に平診9条の会連  
営委員会が開催され15人が  
参加しました。今回は、今  
年の原水禁世界大会に平診  
の代表として参加する硯  
美穂さん(看護師)の壮行会  
も兼ねて行われました。は  
じめに戦争体験の話(18回目)  
を高成浩史薬剤師より報告  
(次ページに掲載)その後、  
代表派遣の硯美穂さんより  
今年の世界大会の意義と決  
意が語られ、参加した全員  
より「硯さんに託すこと」  
を発言しました。

●核兵器禁止条約が採択さ  
れたことは嬉しいこと。署  
名を集めた成果が今になっ  
て実を結んだ。日本がこの  
条約採択の先頭にならない  
のは残念。

●条約の採択は今年の大き  
な出来事。20歳の時に世界  
大会に参加したが、その時  
は核廃絶は遠いことだと思っ  
ていた。議長を務めたコス  
タリカの大使が意見をまと  
めて議論をしていた。NP  
Tのような曖昧な内容の条  
約ではない。

●長崎には8年前に行った。  
とても暑かったがこんな  
いい街なのに原爆が落とさ  
れた。楽しみつつ学んでき  
てほしい。

●昨年は、オバマ大統領が  
広島に来て核廃絶へ向けた  
動きがあったと思ったが日  
本が条約に反対して失望し  
た。

●長崎でぜひ色々なことを  
学んできてほしい。戦争体  
験を聞いて亡くなった方も  
いて残念。

●自分が参加した時は晴れ  
ていても暑かった。開  
会式でとにかく人が沢山  
いて会場へ入れなかった。

# 原水禁世界大会報告会

8月31日(木)13時30分  
診療所リハビリ室にて

30万円を超える募金が集まりました。  
どうもありがとうございました。  
報告会にもぜひ参加下さい。



次回の平診9条の  
会運営委員会

8月28日(月)  
17時15分  
より開催です。

\*戦争中は野球は敵国アメリカの事実上の国技であることから、競技禁止を免れるため競技団体自らによる徹底した英語の排除が行われた。敵性語として扱われ日本語への言い換えが行われた。

一例は、ストライクⅡよし、セーフⅡ安全、ファールⅡ圏外、三振Ⅱそれまで、グローブやミットⅡ手袋など。

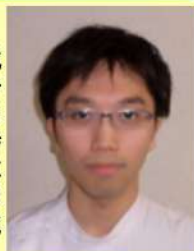
戦争は絶対によくない。あんな思いはもう二度としない。

戦争中は野球は敵国アメリカの事実上の国技であることから、競技禁止を免れるため競技団体自らによる徹底した英語の排除が行われた。敵性語として扱われ日本語への言い換えが行われた。

← こんなにも沢山の人が同じ目的で活動をしているのだと。大会後も交流を持ち続けることも大事だ。

- 核兵器禁止条約のことは初めて知った。日本は唯一の被爆国で発言力やインパクトもあるので条約に賛成をしたほうがいいのに。大学生の時に薬局でアルバイトをしていた時に「保険証」ではなく「被爆者手帳」を持ってきた方がいた。その時に被爆者の存在をはじめて知った。
- 被爆者は「自分たちと同じような人をもう二度と作らないでほしい」という思いだ。その思いに日本が応えていないのは本当に腹が立つ。世界大会は、学ぼうと思わなくても自然と環境が学ばせてくれる。気負わずに頑張ってきてほしい。
- 地域的に広島と長崎は違うがやっていることは同じ。分科会など学ぶことはできるし、ぜひ楽しんで行ってきてほしい。
- 署名の運動は本当に大事だと思う。
- 5分間レクチャーでも被爆者の状況を学ぶことができた。
- 見て聞いて感じてきてほしい。核兵器のない世界を実現をすることが大事だ。歴史を見てもそう思う。
- 大きな節目の意義のある大会になる。行くことが主目的ではなく、帰ってきて広げていくことも大事。
- 原爆記念館をぜひ見に来てほしい。自分は衝撃を受けた。被爆者をぜひ見つけて話を聞いてきてほしい。
- 核兵器禁止条約のことは、しんぶん「赤旗」に掲載の志位日本共産党委員長の記事を読んでほしい。国連では小さな国が集まって今回条約が採択された。それらの国から「なぜ核兵器を持ち続ける合理性を主張して行かないのか？」との疑問の声が上がっている。原水禁世界大会壮行会はこの院所でも行っているが、平診のようにこれほど日常的に地道に学んでいるところは他にはなく、その活動はピカイチだと思う。長崎は「チャンポン」が有名だが、たくさんの文化が融合して作られたと聞いている。芦別で有名な「ガタタン」もそうだと思う。

## 戦争体験を聞く⑱



86歳男性のNさんから高成浩史薬剤師が聞き取り発表しました。その要約を紹介します。

戦争当時は10歳くらい。父親、兄弟、従弟みんなが戦争に行った。そしてみんな戦死した。徴兵されて戦争に行く前に二週間くらい休みをくれる、その時に親戚一同集まって宴会をする、その時におじさんに遊んでもらった。秋田の釜山の町で生まれた、米や食料は配給制で兄弟は5人いたから食べるものも少なかった、なので米はおかゆにしてのばして食べていた。とにかく腹が減ってそれが辛かった。

秋田の町は空襲が少なかった。なぜなら釜山があったので捕虜の外国人をいっぱい働かせていた、アメリカ人や中国人などいっぱい人がいた。だからバクダンが落ちてこなかった。B29や戦闘機の空襲があつて防空壕に入るけど爆撃されたことはなかった。

戦時中は学校に行っていたけど、授業の一環で農家の手伝いなどをやらされた。作ったものは自分たちではなく、軍へと送られていった。

学校の中で英語を使うのはダメ、野球の用語も使ったらダメだった。先生は戦闘帽をかぶって授業をした、軍隊式の授業だった、一人ミスしたら連帯責任でみんながビンタをされた。「教育勅語」とかそんなことばかり教えられた。

終戦になって炭鉱が栄えてきた、18歳の時に頼城に来た。炭鉱では働き始めた。

自分を誘ってくれた先輩の炭鉱員が落盤事故で亡くなった。それをみてか、3年くらい一度炭鉱員をやめた。その後色々フラフラして赤平でまた炭鉱員をはじめた。そのあとは定年まで40年くらい働いた。

戦争についてどう思っていますか？と聞くと、戦争は絶対ダメ！腹減ってつらかった、物もなくつらかった、冬靴もなかったのでワラで編んだ靴をはいていた、大変だった。